



## 2 事業評価シート

<p>事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●開校から11年を迎え、地域で学び舎ひまわりの認知度が高まり、地域の中で積極的に今後を担う人材への受講をうながす動きがみられる。講座の開催意図が広く認知されていると感じる。</li> <li>●コロナ禍以降初めて卒業生の交流会を開催した。いただいた意見を今期の講座内容（紹介事例など）に反映することが出来た。</li> <li>●第2講にて現地見学した取組を第3講でも扱うことで、現地で見学しただけでは分からない部分まで学ぶことが出来た。</li> <li>●昨年度同様、企業からの受講生を迎え講座を開催した。継続して受講していただくことで、企業も協働による地域づくりをすすめる一員であるという理解が進んでいる。</li> <li>●各講座のアンケート結果が高評価であり、受講生に満足していただける講座を実施することができた。</li> </ul>
<p>協働により得た成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講座当日の運営について、団体と行政で協力して円滑に進めることが出来た。</li> <li>●事前や講座終了後の資料作成、開催報告作成やマイプラン編集等といった事務を、うまく事務局内で役割分担でき、滞りなく講座を運営することができた。</li> </ul>
<p>課題と今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●受講生を出せない地区が固定化しつつある。また地域ケアプラザからの受講生がいない期が続いている。次年度は新たなアプローチを検討する必要がある。</li> <li>●募集要項で中学生以上が受講可能であることを明記するなどの工夫を行うことで、青少年も含む幅広い層に受講してもらい、地域活動の担い手の層を広げていきたい。</li> <li>●コロナ禍が明け、以前より現役で働いている世代の受講生が減少したと感じる。多忙な世代にも受講してもらえよう、たとえばリモートや講座を録画して後で視聴できないか等について検討したい。（困難ではあるが）</li> <li>●今年度はコロナ禍前に行っていた全卒業生対象の番外編・卒業生交流会を再開し、期を超えた交流の促進を進めることができたが、参加者が固定化しつつある。特に期の浅い卒業生の参加者が少ないので、時期や内容、開催回数の検討が必要。</li> <li>●コロナ禍前より卒業生対象の番外編として事例等の見学会を本編講座の終了後に開催してきたが、見学先が限られるため、時期や内容を精査し、毎年開催しないことも含めて検討する必要がある。</li> <li>●「今後の地域活動の充実と「協働による地域づくり」のより一層の推進を図る」という事業目的達成のため、受講生の卒業後の活動について調査し、必要な支援を行う必要がある。</li> </ul>